

所属・資格 国文学科・教授

申請者氏名 井上 優

研究課題		日本語母語話者のための中国語文法書の作成
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>【目的】「日本語母語話者のための中国語文法書」を作成する。</p> <p>【概要】従来の中国語文法書は、中国語母語話者の感覚で書かれている。そのような文法書は、日本語とする学習者にとって重要・有益な情報が書かれていなかったり、説明が理解しにくかったりすることが少なくない。本研究では、①日本語母語話者にとって重要・有益な情報、②日本語母語話者に直感的にわかりやすい説明、というコンセプトのもとで、日本語母語話者のための新しい中国語文法書を作成する。</p>
	研究の結果	<p>主に次の2点について考察をおこなった。</p> <p>(1) 中国語の「是…的」構文は、日本語の「のだ」文と対応させて説明されることが多いが、実際にはむしろ日本語の疑似分裂文「…のは…だ」と結びつけて説明したほうが、文の使用場面や文の意味を正確に理解できる。「是…的」構文が過去の動作にしか用いられない点についても、中国語では「まだ存在しない、あるいは現在存在する動作の存在を述べる」ということと「過去に存在したが、現在は存在しない動作の属性を述べる」ということの違いを理解させることが有効である。</p> <p>(2) 中国語の可能表現は助動詞系と可能補語系に分かれる。両者は「可能表現」としてまとめられることが多いが、これは日本語を母語とする中国語学習者には非常にわかりにくい。助動詞系は「可能」として説明し、可能補語系はそれとは別に、結果補語と合わせて「成功」と説明したほうがわかりやすい。助動詞系についても、いわゆる能力可能・状況可能の概念は用いずに、「会」は「身に付けている動作のレパートリー」を述べる表現、「能」は「十分にできると見込めること」を述べる表現、「可以」は「できると見込んでも問題ないこと」を述べる表現として説明したほうがわかりやすい。</p>
	研究の考察・反省	<p>以前から疑問に思っていた点について明確な見通しが得られたことは有意義であった。日本語の表現と中国語の表現の対応関係を正確に把握するうえでも非常に役に立った。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本中国語学会 2024 年度中国語学セミナー 「日本語研究者から見た中国語のアスペクトとモダリティ」(2024 年 9 月 7 日 (土)、オンライン)</li> <li>・日本中国語学会 2024 年度北陸支部例会 「中国語の焦点表示について」(2025 年 3 月 22 日 (土)、IT ビジネスプラザ武蔵 (金沢市))</li> </ul>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「対照研究のやりやすさ」『日中言語対照研究』26 (2024 年 5 月 13 日、日中対照言語学会)</li> <li>・「日本語・中国語・韓国語の対照研究を通じて考えたこと」『日中韓言語文化比較研究 (上)』(2024 年 12 月 24 日、韓国文化社)</li> <li>・「日本語・中国語・韓国語の可能文の意味」『語文』178 (2025 年 1 月 25 日、日本大学国文学会)</li> </ul>	